

特集

# 男女共同参画って何？

大崎市では、一人ひとりが個性豊かに生きることができるよう男女共同参画社会の形成を目指し、平成二十年三月に「大崎市男女共同参画推進基本条例」を制定、今年三月には「大崎市男女共同参画推進基本計画」を策定しました。大崎市が進める男女共同参画とはどういうものなのか、男女共同参画推進審議会委員として計画づくりに関わった三人にお話を伺いました。

◎ 男女共同参画推進室 ☎5069

Voice 1

## より良い人間関係を築くために

大崎市男女共同参画推進審議会委員  
若見正幸さん

以前、地域づくりの事に携わっていたとき「女性のためのまちづくりハンドブック」という本の作成を手がけたことがあったので、男女共同参画にも興味がありました。

はじめは「女性の社会進出の手伝いができればいい、女性や子ども、高齢者などの立場の弱い人は、大切にされてしかるべき」という思いでしたが、個人の尊厳と向き合う奥の深いのだと気づかされました。

「男女差別なんて昔のこと」と思われる人もいるかも知れませんが、女性がやりたいことがあってもできないとか、女性に学歴はいらぬとか、

女性には家の中にいればいい、という考え方は、まだまだ残っています。

職場で、セクハラやいじめ、賃金格差といった問題に直面したとしても、職を失うことを恐れて、我慢を強いられるようなことがあれば問題です。

男女共同参画の考え方は、いい人間関係をつくり、働きやすい職場をつくるために、企業にとってもメリットがあるはずなんです。

また、子育ての環境、病院や医療、介護、女性の働きやすい環境づくりなど、男女共同を進めるといえることは、住みやすいまちになることで、

これからの自治体の条件になるはずなんです。

だからといって「男女共同参画を推進しますから、考え方を変えましょう」といっても無理な話なんです。

浸透させるためには、子どもたちが小さいうちから、もちろん子どもだけでなく、地域や家庭、企業を含めて、大崎市全体で市民を巻き込んだ取り組みが必要で、長い年月がかかろうとも必ずやらなければならぬことです。

もう一つ、自分の認識を新たにすることは「DV」(ドメスティック・バイオレンス) 夫婦や親しい男女、家族間に起きる家庭内暴力のこと



● 若見正幸さん

古川地域在住。(前)若見自動車整備工場専務取締役として奔走する傍ら、NPO法人無栗沼っこくらぶで、ボランティアガイドとしても活躍中。

Voice 2

## 家族同士で理解しあうことが大切

大崎市男女共同参画推進審議会委員  
氏家美津枝さん

大崎市の男女共同参画推進基本条例の前文には、私がとても大切に思っていることが書かれています。私だけでなくほかの委員の皆さんも、同じ思いでいると思います。が、「人間としての尊厳が守られなければならない」ということです。

それは、相手を思いやること

とができなければ、決して成し遂げることができないものだと思います。

条例に掲げられている難しい文言も大切ではありませんが、皆さんが簡単に取掛かることができそうなことから始めることが大切だと考えています。

か、そういうことではなくて、やってみようことが当たり前前、女の仕事、男の仕事と決め付けしないで、理解しあうことからはじめてみませんか。

「やってあげた」という気持ちではなくて「できる事だからやったんだ」ということが大切です。

お互いに何か発見があつて理解が深まると思います。

小さなことから気遣うことが大事で、大上段に構えて「男だから、女だからこうしなればならない」みたいな話にしてしまうと難しくなってしまう。

たとえば、家族の交換ノートを作つて、いつもは家族がしていることを自分でやってみるとき、感想を添えてノートに書き込んでみる。男の人が集積所までゴミ袋を持っていった、とか、味噌汁をつくつてみた、とか。女の人も、いつも男の人にやってもらっている仕事をしたら重くて大変だったとか。

自分がやらなかった世界に一步踏み込むことで、できることは自分でやれる、そこからのいい関係が生まれてくると思います。



● 氏家美津枝さん

岩出山地域在住。旧岩出山町時代から男女共同参画の審議会委員として参画。